

# リズムカルな空間構成

1級建築士事務所  
スタジオ・シンフォニカ

立方体や「T邸」が完成  
立正方形基調

建築家・畠中秀幸氏が主宰する1級建築士事務所スタジオ・シンフォニカ（札幌）による個人住宅「T邸」がこのほど札幌市西区に完成した。立方体や正方形を基調とした平面・立面計画と小道のような長い動線が特徴。リズムカルで調和のある空間構成が宗教的な厳かさを感じさせる。

平面は7735<sup>ミ</sup>の正方形で軒高は7860<sup>ミ</sup>とほぼ立方体の木造住宅。

フルートを演奏する施主がミニコンサートを開けるよう、客席にもなる

水平・垂直方向のシンプルな構造美が光る「T邸」



スキップフロアを用意した。

中心部には135<sup>ミ</sup>角の集成材（構造柱）4本で囲まれた一辺1365<sup>ミ</sup>の光井戸を配置した。この天窗から降り注ぐ陽光と周囲の開口部からの光、風といった自然の要素が室内で交錯し、調和の取れた空間と美しく響き合う。また、この光井戸を取り巻くように動線を用意した。

4本の構造柱は床の応力も負担。このことで床の厚みが薄くなるなど、水平方向の表現もスマートになっている。畠中氏は構造計画も自ら手掛け

た。

集成材や床の構造用合板などは現し仕上げ。畠中氏は「素材の力を感じさせる最も美しい仕上げだと思う」と話し、設計活動の重要なテーマに位置付けてる。

施工は松山建設総業が担当した。

Q1・0住宅など

6月6日に

住宅セミナー

新住協

NPO法人新木造住宅

技術研究協議会（本部・

仙台、代表理事・鎌田紀

彦室工大教授）は、6月